

噫八甲田山(逸名)

風是如刀雪如矢 孤軍欲破苦寒圍

銀城一夜將星墜 二百雄魂呼不歸

風は 是 刀の 如く 雪は 矢の 如し

解説 八甲田雪中行軍遭難事件は、明治三十五年一月に日本陸軍第八師団の歩兵第五連隊が青森市街から八甲田山の田代新湯に向かう雪中行軍の途中で遭難した事件。

孤軍 破らんと 欲す 苦寒の 囲み

語釈 ※孤軍||援軍のない孤立した少人数の軍隊。  
※苦寒||非常に厳しい寒さ。また、厳しい寒さに苦しむこと。  
※銀城||積もった雪の山。※雄魂||雄々しい魂。勇ましい精神を持った軍人。

銀城 一夜 將星 墜つ

二百の 雄魂 呼べども 帰らず

通釈 吹きつける風は刀の如く鋭く、雪は矢のように突き刺さる。孤立した大隊は寒さの囲みを突破しようとしたが力尽き、冷たい雪山での一夜に将兵はことごとく倒れてしまった。二〇八人の雄魂は、呼んでももう帰らない。